

ほ

本郷の

遺跡から出た

小銅鐸

に

尼寺跡に

庚申塔と

ひがん花

は

長谷川氏

墓石ずらりと

浄久寺

ろ

六刀碑

武士すてさりて

農となる

い

今泉

古墳群ある

秋葉山

ぬ

ぬれつばめ

海老名音頭で

田植かな

り

龍峰寺

鉄牛和尚の

八景詩

ち

地の利得て

館構えた

遠馬氏

と

土器・石器

瓦や板碑

温故館

へ

ヘラ鹿の

化石を残す

安養院

秋葉山古墳群

上今泉

古墳は、大陸の文化が日本に入ってきた三世紀から七世紀ごろまでに築かれた豪族の墓です。秋葉山には、前方後円墳や円墳などがあります。このように丘陵を利用して造られたものは古い時期のものといわれています。古墳には葬られた人の棺とその人の持ち物であった鏡や玉、剣などが副葬品として埋められています。秋葉山は海老名市最高の標高八十四メートルの眺のよいところです。この丘の麓の常泉院には徳川家光の養育係をしていた青山伯耆守忠俊のものといわれている供養塔があります。

六刀碑と高木氏

中新田

天正十八年（一五九〇）豊臣秀吉が小田原城を攻略し、徳川家康が関東一円を治めるようになったころ海老名郷は高木主水助清秀が治めていました。二代の正次は元和九年（一六二二）に河内、河南の領主となって赴任して行きましたが中新田の内田、遠藤、盛屋、杉本、鈴木、小川の六氏はこの地にとどまり近くの稲荷の森に刀を納めて土着し農業に転じたということです。その跡を残すため子孫の人達が昭和四十一年に建てたのが六刀碑です。なお正次は同地の諏訪神社を建てました。

長谷川一族の墓地

門沢橋

昔は、戸田の渡し（宿場）であった門沢橋に長谷川山浄久寺があり、大きな宝篋印塔がずらりと並んでいます。これは駿河の今川氏に仕え、後に当地や武蔵国の一部を支配していた旗本の長谷川一族の墓標です。この寺は寛永五年に初代筑後守政成が建てた寺でその法名から寺の名がつけられ十河代もつづいていました。（作家池波正太郎著「鬼平犯科帳」で活躍する火附盗賊改め役の長谷川平藏も一族の一人です。）境内には大山街道で行倒れになった人たちの小さな百基ほどの無縁仏の墓石があります。

国分尼寺跡 国史跡

国分北

国分尼寺は、奈良時代に国分寺（僧寺）が建てられてから四〜五十年遅れて僧寺の北方約五百メートルのところに建てられました。貞観年間（八六〇年代）に衰退したので近くの湧河寺（漢河寺）に移ったりしたこともあります。現在は金堂あとに土壇と礎石の一部が残されております。銀杏の木の下に祠や庚申塔があつて、秋になると礎石のそばに曼珠沙華が咲いて昔をしのばせてくれます。講堂の跡は、その北方二十メートルのところで、標識が立っています。

本郷遺跡ほか

本郷ほか市内各地

本郷の富士ゼロックスの敷地から古い時代の住居跡がたくさんみつかりました。（昭和四十六年から調査）小さな銅鐸をはじめ管玉、墨書土器、施釉陶器、石帯などが出土し玉造工房跡、方形周溝墓などもありました。このほか市内各地から旧石器時代、縄文時代、古墳時代、奈良、平安時代などの住居跡や石器土器の破片、石斧、石鏃などが多く出土しています。とくに柏ヶ谷や国分地区からは旧石器時代の石器が発見されています。

へら鹿の化石と安養院

河原口

大正の末に安養院の境内からへら鹿（大鹿の一種で現在は北極圏のみに棲む）の角の化石が出土しました。これは日本が大陸に続いてきたこと、氷河時代のあったことなどの裏付になる貴重な資料といわれています。この寺の西側裏手に有鹿の丘（経塚）があり昭和三十四年の発掘で一石に一字ずつ墨で書いた般若心経が出土しました。また、境内に三眼六足稲荷明神がありますが昔白い狐が農夫に化けて蝗や蟹の害を除いたとの伝説があり、それを祀ったものだといわれています。

温故館 市の施設

国分南

海老名には、相模国分寺跡をはじめ数多くの史跡や文化財があります。この温故館は、大正7年4月に村役場庁舎として完成した建物で、修復し昭和57年10月から郷土資料館として開館、広く市民に親しまれています。一階には土器・石器をはじめ相模国分寺関係資料などの考古・歴史資料が、二階には生活関連用具・農耕具・養蚕具などの民俗資料が展示されています。私たちに、郷土に残されている歴史・文化財などを大切に保存し後世に伝えていく責任があります。

遠馬氏館跡

杉久保北

海老名市と綾瀬市の境の杉久保の丘に県立かながわ農業アカデミーがあります。そこには鎌倉幕府で重い役についていた渋谷重国の三子遠馬時国の居館があつたといわれ（それ以前は平良将の出の御殿氏がここに館を築いたといわれています）ています。南に鎌倉街道や東に八王子街道が通じていたので一族の早川城や吉岡城とともに鎌倉幕府の重要な地点でした。西に大山、丹沢、箱根、富士、北に甲武の山々を望み軍事的にも交通の面からも地の利を得たところでした。

龍峰寺八景

国分南

龍峰寺は、もと海老名中学校のところにありましたが、昭和四年現在の所に移りました。南北朝時代に円光大照禪師が建立したと伝えられています。元禄のころ、名僧鉄牛和尚がこの寺にとどまり八景の詩を残しました。その題名は「大山の夕照、土峰の晴雪、鳴沢の暝煙、清水の鐘声、島間の春耕、湘浦の度船、菅社の秋月、祇林の緑樹」で当時の海老名の風景がよく表現されています。なお、龍峰寺の天溪和尚は、天明四年（一七八四）に源頼朝を清水寺の中興の祖とした碑や普門、円通の大きな碑を建てました。

海老名音頭（ささら踊りは県指定）

海老名耕地は一口に五千石といわれ県下有数の米どころで春の田植や秋の収穫時は忙しく音頭に合わせて働く人々の姿がよくみられました。海老名音頭は昭和六年に青年団の肝いりでできました。当時の風物がよく詠いこまれていきます。昭和五十年にレコードにされ輪踊りとして復活し、昭和五十三年には「かながわのうた」五十選の一位に入選しました。作詩・柿沢幹雄氏、作曲・照井詠三氏。一節「由緒正しい井桁の耕地、ソレサイ、螢光れば、蛙がおどる……」このほか大正時代まで盆踊りのささら盆踊りや作業歌として棒打歌や糸取歌がありました。

よ

世に伝う  
市神跡と  
太鼓塚

か

唐金の  
如来しずかに  
東林寺

わ

若き尼の  
恋物語  
尼の泣水

を

憲章を  
か、げて  
海老名栄えゆく

る

瑠璃光の  
如来あらたか  
薬師堂

ね

根を張った  
相生の櫃に  
観音堂

つ

釣鐘は  
国分季頼の  
銘残す

そ

その昔  
外記河原には  
救急院

れ

連綿と  
歴史伝える  
古い道

た

玉椿  
咲かずに落ちる  
地藏堂

薬師堂とその旧地

国分南

薬師堂は、相模国分寺建立とともに国分字宮台の丘の上  
にありましたが、室町時代に現在のところに移りました。  
それ以前に国分寺は僧寺も尼寺も衰えて旧地の堂内に移  
られていました。薬師本尊は一七五の瑠璃光如来の  
立像で日光、月光の両菩薩と十二神将を従え慈顔をただ  
よわせています。お堂は昭和四十六年に、鐘楼は五十年  
に完成し旧薬師院の礎石が使われています。現在、薬師  
堂が国分寺の法灯を継いでいます。

椿地藏 (椿は市・天然記念物)

杉久保南

元禄の初め、二月の寒風の中を杉久保の千駄寺(現在  
廃寺)の門前を旅姿の母と娘が通りかかり、娘が急に発  
病しました。困っているで村の人達が介抱してあげま  
したが娘は死んでしまいました。人々は娘を哀れに思い  
香を焚き冥福を祈りました。そして、そこに供えた椿の  
一枝が根付きましたが、不思議なことに、乙女の悲運を  
あわれんでか、この椿は蕾にほんのり紅をのぞかせたま  
ま咲かずに落ちてしまいます。この不思議な伝説をもつ  
椿の下に玉椿地藏が祀られています。

海老名市民憲章

海老名は、昭和四十六年に市制がしかれました。(それ  
以前昭和三十年に有馬村と合併しています。)市制施行を  
記念して翌四十七年に「市民憲章」が制定されました。

- 一、文化をたかめ住みよいまちにいたしましょう。
- 一、木や花を植えて美しい環境をつくりましょう。
- 一、誇りをもち親しみ助け合ひましょう。
- 一、誇りをもつて働き生活を楽しましましょう。
- 一、スポーツを愛して健康なからだにきたえましょう。

尼の泣水 伝説

国分南

最近まで海老名小学校のすぐらの台地の畑の片隅の  
崖から清水がしたり落ちていて、これを「尼の泣水」  
と呼んでいました。昔、国分尼寺の若い尼と漁師が恋に  
おち、国分寺の伽藍の光が水に映って魚がとれなくなっ  
たから寺を焼くようにと漁師にそそのかされ、尼はつ  
いに国分寺に火をつけ焼いてしまいました。その罰とし  
て尼は生理にされて首引きの刑に処せられ、尼の涙がし  
たたり落ちるのだと伝えられました。宅地造成で場  
所もわかりにくくなりましたが、そこにあった供養碑は  
現在、薬師堂の境内に移されています。

外記河原の救急院跡

上郷

平安の末の承和十一年(八四四)相模介橋永範(太政  
官府の外記の職にあった人でしょう)は、新たに耕作地  
を開墾し、その資金で救急院をつくり、病人など、こま  
まっている人びとを助けました。  
また、延暦元年(七八二)に下今泉に鎮守浅間神社(祭  
神・木花咲耶姫)は、橋氏が富士浅間社から勧誘して建  
てたと伝えられています。

大日如来座像 東林寺

市・重文

今里

今里の東林寺の本尊は青銅で作られた結伽趺座の立派  
な大日如来像です。「新編相模国風土記稿」に一尺五寸とあ  
ります。像の背に「富士山中宮大日、天文四年(一五三  
五)乙未二月十六日、願主別当順仙、太田左衛門次郎、  
作天命金屋住」とはっきり彫まれています。もとは富士  
浅間中宮の本地仏だったのでしょうか。

東林寺は天正十三年(一五八五)この地に中興となっ  
ています。円覚寺の末寺として、もとは鎌倉の扇谷にあ  
ったということです。

国分寺薬師堂の梵鐘

国・重文

国分南

国分寺薬師堂の釣鐘は、薬師堂が尼寺といつしよに南  
の丘にあったころ、海老名氏の一族の国分季頼が寄進し  
たものといわれています。銘に「大日本国相州国分尼寺  
植鐘、大壇那源季頼」正応五年(一二九二)平氏女、源氏  
女、源季久「大工・大和権守物部国光作」「一聴鐘声三界  
の苦を脱す」とあります。多くの人々の奇進によってで  
きたものでしょう。  
国光は、鎌倉の円覚寺や金沢八景の称名寺の梵鐘(国  
宝、重文)も作った人です。

太鼓塚と市神跡

大谷北

大谷の北部に市場という小字名があり「市神跡」の碑  
がたっています。奈良時代以後国府や国分寺の近くに地  
方の人々が集まり農作物や農具、日用品などの売買をす  
る市が開かれたところといわれています。大宝令(七〇  
一)の中の開市令に「凡そ市は恒に午の刻(今の正午)  
を以て集れ、日入らん前に鼓三度を撃ちて散ぜよ」とあり  
、東方の太鼓塚はその時を知らせる太鼓を据えつけ打  
つたところと伝えられています。近くの国分には往時の  
風習を偲ばせるような踊場と言う地名もあります。

如意輪観音と相生の榎

大谷南

下大谷に清眼寺という寺が明治の末までありました。  
その境内に安産の観音として信仰されてきた四臂木造の  
如意輪観世音の堂がありました。下大谷の観音堂がそれ  
です。同じ境内に樹齢四百年以上といわれる根元から二  
股に分れた榎の太木があります。またこのお堂には元禄  
四年(二六九二)の銘がある鱈口があります。わきには十王  
堂もあります。石段の下に「右・一之宮・ふじさわ道」  
「左・国分寺・星の谷道」の道標があります。

の

農民を

かばって義民

三太夫

う

移り来た

勝瀬とともに

鳳勝寺

む

村むらの

氏神様の

豊受大神

ら

爛漫の

桜堤に

渡船跡

な

なんじゃもんじゃ

そびえる

驢庵屋敷跡

け

県央に

さすが海老名の

大榎

ま

松風に

豪族ねむる

瓢箪塚

や

弥生神社は

四つのむらの

鎮守様

く

口分田

条里のもとの

一大縄

お

大塚の

その名を残す

柏ヶ谷

なんじやもんじやと鹽庵屋敷跡 県・天然記念物 本郷

本郷の東端を南北に通ずる旧八王子街道のそばに、空高くそびえている大きな木があります。これが昔から有名な「なんじやもんじや」です。木の名がよくわからなかったたのでそう呼ばれたものでしょう。その木の下に碑があります。これには寛永年間(1624-1644)に京都の待從典薬頭で、江戸へ移つてからは徳川三代將軍家光の主治医をしたといふ半井馳庵の下屋敷であつたといわれています。このなんじやもんじやは馳庵が明国(今の中国)から持ち帰つた「ハルニレ」が大きくなつたもののだそうです。

相模川と渡船場跡

河原口・社家・門沢橋

海老名市の西境は相模川ですが、昔は洪水や戦略上の関係もあつて夏から秋は木船で川を渡つたものです。渡辺華山の「游相日記」にも河原口の渡船場(厚木の渡し)のことが書かれています。渡船場は、このほか社家の渡し、戸田の渡しなどがあり四、五そうの木船で人や物を運ぶ交通上の大切な役割をしていました。当時は船がよくとれ、また、下流の茅ヶ崎平塚方面から、帆かけ船で米、塩、干魚などが、上流からは、筏や舟で材木や薪炭玉石等が昭和初期まで運ばれていました。

豊受大神の絵馬

市・重文

杉久保北

伊勢山台地に「杉久保の外宮様」と親しまれて来た豊受神社があります。昔の恩馬四カ村(本郷、根恩馬、上河内、杉久保)の氏神様でした。今は他の神社と同様宗教法人、豊受(皇)大神と称されています。この社の拝殿に古い絵馬三面があります。これは江戸期の狩野派の絵師金指桂山の作品と伝えられています。安元二年(一一七六)に渋谷庄司重国が社領を寄進したこと、治承四年にその子遠馬三郎時国が社堂を修理した記録もあります。

勝瀬地区

(八坂神社は市・重文)

勝瀬

県北の相模湖は、相模川の上流の桂川をせきとめて昭和十五年に着工し同二十二年に竣工しました。その人造湖と発電所を造るために、湖底に沈むことになつた勝瀬の住民は、住みなれた村をあとに各地に移転していきましたが、そのうち二十七戸の人々は墓や寺(鳳勝寺)八坂神社や記念碑、石の地蔵などといつしよに海老名に永住することにになりました。地区名も二十四年に勝瀬となりました。八坂神社の参道に移住記念碑が建てられ、当時の思い出がしるされています。

義民鈴木三太夫

大谷

旧大谷村は、徳川幕府の直轄地でしたが町野巻岐守幸宣の支配地となり、その子幸重は、重税を課したので農民は大変苦しみました。名主の鈴木三太夫は、度々嘆願しましたが、一層きびしい取立てをしましたので、止むなく直接幕府に訴えようとした。そのことが事前に知れ捕えられて二人の男の子と共に貞享元年(一六八四)に斬首の刑を受けました。処刑場跡の碑は、県立中央農高の構内に、父子三人とその直後自害した妻の墓は、妙常寺に、屋敷跡には霊堂と顕彰碑が建っています。

柏ヶ谷の大塚

柏ヶ谷

柏ヶ谷は、相模横山台地の内にあつて、座間市、大和市、綾瀬市に囲まれた地区ですが、昔はこの一帯が大塚といいました。上記それぞれの市に大塚という字名があります。その名の発祥の塚が柏ヶ谷小学校入口に近い民家の庭に近年までありました。東西に矢倉沢往還(大山道)のほか鎌倉街道、観音巡礼道が通っています。この塚は古墳と思われましたが鎌倉、室町期の戦死者を葬つた塚ではなからうかという説もありました。この地名も糟屋、柏谷、柏ヶ谷と変つていきます。

なお、この近くの五輪山(字・中村)の周辺から五輪塔や板碑が出土しています。

条里制の古田

海老名耕地全域

大化の改新以後、班田収授の制度が定められ、その口分田として割当てるために海老名田圃を基盤の目のように区画しました。縦、横六町間隔の条里とし、耕地の形を整えました。その最初の基準線が一大繩で、一、二、三、四……と東西に南北に線が引かれました。その範囲は北は下今泉から上今泉井戸坂辺に、また南部は、上、中河内の南、本郷から入内島を経て中野に達する通りまで及んだといわれます。一大繩は、大田旧国道二四六号線に沿つていて、そのおもかけを残しています。

弥生神社

国分・上今泉・柏ヶ谷・望地

弥生神社は、清水寺公園の西側にありますが、このお宮は国分の八幡宮、上今泉の比良神社、柏ヶ谷の第六天社、望地の大綱神社を、明治四十二年(一九〇九)に合祀し一社としたものです。春にちなんだ弥生神社とし、その年の十二月に新殿の造営が終り、遷宮式が行われました。

中でも国分八幡宮は、国分寺との関係が深く、もとは、今の海老名小学校の構内にありました。その礎石の一部は旧地に近い同校に残されています。

瓢箪塚古墳

国分寺台

相模川中流域に広がる低地を一望できる、大変眺めの良い座間丘陵上に六、七つの墳墓があり、上浜田古墳群を形成しています。そのうち、丘陵頂部に位置する大規模な前方後円墳が瓢箪塚古墳です。宅地造成で周囲が削られたため、遺存状態が悪いのですが平成七年から八年にかけて行われた学術調査によつて、大きさは墳長七十一メートル以上、後円部径が四十四メートル、前方部の長さ二十七メートル以上で、築造年代は堆積した火山灰や出土した埴輪などから四世紀末〜五世紀初頭と推定されます。

瓢箪塚古墳が古墳として広く認識され今日に至るまでその姿を保存することが出来たことは郷土史家中山毎吉の功績によるところが大きく、明治から大正にかけて記された氏の著作の中に瓢箪塚古墳の計測値などが記されています。

海老名の大櫓

県・天然記念物

国分南

国分寺薬師堂の参道の入口に、周囲八メートル、高さ二十メートルもある大櫓があります。樹齢およそ五六〇年の老木ですが、いまなお枝を張り茂っています。大山街道(青山街道)の道筋に当り、国分の宿にあつたので昔から有名でした。この櫓については、このあたりが入海であつたころ漁師が船をつなぐために打ちこんだ逆杭が根づいて大櫓になつたという伝説があります。

あ 有鹿社は  
式内社にて

水守る

て 天平の

礎石が語る

国分寺

え 海老名氏は

鎌倉時代の

名武将

こ 国分・大谷の

歌舞伎は

無形文化財

ふ 古銀杏

傾き芽ぶく

中野八幡

み 三島社の

不動明王

いかめしく

め 眼がきりり

像は正時

海源寺

ゆ ゆかりある

蘇生延寿の

鐘かえる

き 郷土史の

道をひらいた

中山翁

さ 産川の

地名残した

護王姫

中野八幡宮と銀杏古木

中野

中野の盛福寺「慶長五年（一六〇〇）創建・無住」に隣りあつて八幡宮があります。古くは若宮正八幡宮といわれ祭神は応神天皇（菅田別命）です。享保二年（一七一七）奉納雲漢作の八幡太郎義家の騎馬像が祀られています。境内に周囲八尺の銀杏の木がありますが樹齢六百年ぐらいといわれています。昭和四十一年の台風で倒れた時上部が伐られ傾いていますが、なおわずかに芽を出しています。最近篤志家によってそのそばに若木が植えられました。また、入内島地区には片葉の葦の伝説を残す天神社（片葉天神）があります。

産川伝説

上今泉

今泉氏は、海老名氏と同系で永享の乱（鎌倉公方足利持氏が室町幕府に叛いた事件）で敗れました。与党の伊予守六郎は、永享十二年（一四四〇）上今泉の井戸坂上の館から持氏のため再挙を図りましたが志ならず、鎌倉街道を下野結城に向つて落ちのびました。伝説では、その時妻の護玉姫も逃げる途中、川べりで赤子を産み落しました。そのためこの地を産川といい、下流の橋を赤子橋と名付けたということです。姫は、座間の入谷まで落ちのび落命したそうです。現在この地に安産の神、護王神社があります。

国分歌舞伎・大谷芸能保存会

市・無形文化財 国分・大谷

「素人歌舞伎国分一座」と「大谷芸能保存会（歌舞伎、囃子、舞踊）」は、今泉の又太郎や厚木の市川柿之助などの影響や指導を受け、古くから上演されてきました。現在のようにテレビなどの娯楽のなかつた江戸時代から大正時代にかけて、素人歌舞伎は数少ない農村の人々の楽しみでした。

残念ながら国分一座は活動が途絶えてしまいましたが「大谷芸能保存会」は現在も地元のお祭りや、市内外の行事に出演し、県を代表する素人歌舞伎として親しまれています。

海老名氏居館跡

河原口

海老名氏は、源有兼が永久年間相模守として当地に在任し、その子季兼が地名によつて海老名氏を稱したといわれています。その中でも鎌倉時代の源八季定は「吾妻鑑」などに載っている有名な武将でした。その子孫も下海老名氏、国分氏、本間氏、荻野氏など地名を姓として各地で関東武士の面目を發揮しました。永享の乱（一四三八）後は衰えましたが居館附近には、お屋敷、屋島、道場前などの地名や霊堂、宝篋印塔、板碑などがあり、昭和四十六年に一族供養の五輪の塔が建てられました。

寿閑寺の鐘

本郷

用田橋の近くに寿閑寺があります。この寺は、宇治川の先陣で有名な佐々木高綱の子孫であり、乃木大将の祖先に当る乃木寿閑が建てた寺です。脇立仏の普賢文珠の両菩薩像はこのあたりではめづらしい仏像です。延宝三年（一六七五）父母祖先の供養のために寿閑が納めた鐘がどうした訳か伊勢原の大慈寺にいつていました。昭和四十八年にそれが還つて来ましたが、寺では鐘樓を築いて「蘇生延寿の鐘」と名づけました。なお、この近くの本覚寺に立派な大日如来坐像と毘沙門天立像があります。

相模国分寺跡 国・史跡

国分南

奈良時代の天平十三年（七四一）聖武天皇の詔勅により国家鎮護のための金光明天王護国寺（国分僧寺）法華滅罪寺（国分尼寺）が建てられることになり、相模国では、国の中央にあつて景勝地である当海老名の地に建立されました。僧寺は大きな建物でその配置は、法隆寺と同じで西に七重塔、東に金堂（本堂）中央奥に講堂がありました。天災や兵乱のため荒れてしまい、今は大きな礎石などによつて、昔を偲ぶのみです。現在薬師堂がその後を継いでいます。

大島正時の坐像 市・重文

中新田

海老名駅の南方の耕地の中に大島正時が寛正年間に開いた海源寺があります。ここに大島豊後守正時の坐像があります。大島氏は、海老名氏が衰え永享の乱や田村の日奉氏との戦いの際海老名氏の招請により下総から来援しました。海老名広治の死後、後継ぎがなかつたので養母の兄が海老名氏である正時が、その後を継ぎ以来当地で名家として続いています。正時の像は、その死去（永正二年一五〇五）後に作られたものと思われれますが、現在の座像は宝永七年（一七一〇）の作となっています。

式内社 有鹿神社

（本殿及び天井絵図は市・重文） 上郷

有鹿神社は、延喜式の神名帳の中に登録されている相模国十三社の一つで市内随一の古い神社です。相模川沿いの美しい森の中にあります。昔、田植時には勝坂の有鹿谷（現相模原市）へ神輿で神霊を鎮座させ耕地の水源を確保しました。またこの森を中心に附近の堤防を水を守る拠点となっていました。この社の近くには別当寺であった宝樹寺跡や有鹿池、有鹿井戸などがあります。祭神は、大日靈貴姫（おおひるめむちのみこと）です。

不動明王立像 三島社境内

社家

相模川沿いの社家地区は、神職の家が多かつたので村の名としたといわれています。三島社の境内に火焔を背負った立姿の黒い不動明王像二体が、聖観音二体、弘法大師座像とともに納められています。不動像の光背の裏に「元禄十年（一六九七）施相州長谷村住、師匠快祐弟子頼祐、大山寺法印権大僧都賢操」台座に「正明寺本尊再興云々」とありますので別当寺であった正明寺（廃寺）にあつたものと思われれます。昔社家には渡船場がありました。近くに常在寺、法閑寺、明窓寺、淨光寺があります。

す

水害から  
村を救った  
お松の碑

せ

千手観音  
仁王が守る  
清水寺

も

望地から  
国分へ架けた  
石の橋

ひ

左手に  
蓮の花もつ  
観世音

し

市の花の  
その名をとって  
さつき町

ん

運河では  
相模最古の  
逆川

さつき町など

さつき町など

海老名は昭和三十年有馬村と合併し、昭和四十六年十一月一日に市制がされました。

そして翌年市の花に「さつき」市の木に「ツゲ」が制定されました。

さつき町は厚木駅の近くに四十八年海老名プラザ（六六〇戸）を中心に誕生、附近に市立海西中学、県立青少年会館（当時）、健康センター（現在の医療センター）などの公共施設もできました。そして市の花の名を町名としました。

### 十一面観世音菩薩座像 市・重文

門沢橋

海老名は、観音様の多いところですが、正覚寺の観音像は、檜の寄木造りの座像で金箔がほどこされています。座高約四七センチの光背のある十一面観世音菩薩です。結伽趺坐の姿で左手には蓮華の花を持ち、右手は前に開いてさし出され、端正な姿をしています。頭上の十一面のうち欠けているところがあります。火災などのために記録がはっきりしておりませんが江戸時代初期からのものと思われま

### 目久尻川の石橋勧進

望地・国分北

東京の青山から足柄峠に通ずる矢倉沢往還は、大塚から望地に出て目久尻川を渡って国分に入りませんが、その橋は、木橋でした。往来する人馬の安全を願って石橋に替えるため国分村の七三郎という人が宝暦七年（一七五七）に寄附を募りました。その時の勧進帳の名文を刷った版木が今も七三郎の子孫の家に残っています。この時の石橋は伊豆石で組まれ横一・五五、長さ四・六五ほどのものでした。大正十二年の関東大震災でこわれて河に埋まってしまいましたが、昭和五十二年河川改修のときに何枚かが引き上げられ、現在は逆川史跡碑の敷地内に置かれています。

### 千手観音立像

国・重文、その他市指定

国分北

清水寺の千手観音は国分尼寺より以前にあつた官寺の湧河寺に安置されてきました。建久五年（一一九四）源頼朝が国分寺を修復の際湧河寺も修理しましたが、このとき清水が湧き出したので清水寺と改め、水堂の観音様として信仰されるようになりました。元禄十二年（一六九九）に現在の丘の上に移されました。木彫一・七の尊像です。この観音堂、仁王門、金剛力士像は市の重要文化財に指定されています。堂には歌川国経筆の絵馬もあり、ともに龍峰寺が保存管理に当たっています。昭和四十五年千手観音立像の収蔵庫ができました。毎年、一月一日と三月十七日には開帳されます。

### お松の碑

上今泉

相模川は、市の西側を静かに流れていますが昔は大雨のたびに洪水となり家が流され、田畑が水浸しになりました。ことに上今泉の崖下からの被害はひどかったのです。この地の領主久世大和守は寛文二年（一六六二）堤防強化の工事を発し、その工事を成功させるために村の娘の「お松」を入柱にたてました。その後、上今泉の榎戸に護岸の安泰を祈り、お松の供養碑が建てられました。なおこのあたりには母の不義と姉妹愛にまつわる桜田姫と小柳姫の伝説も残っています。

### 逆川の遺跡

国分南

昔目久尻川の水を国分の杉本から取入れ、相模横山の丘を掘割り北へ逆流させて上今泉あたりまで約三キロ引き海老名耕地の灌漑用水にしました。そのため逆川の名があります。この川は大化の改新のころ班田開発のため造られたと言われ極めて古いものです。耕地への出口の尼寺跡から相模国分寺跡あたりまでは運河としても使用されたものと思われま